

《物語文》  
ものごと

物語の中で、あることが行われているひとまとまりの部分を「場面」といいます。また、物語の場面に出てくる人や人のように考えたり動いたりする生き物や物のことを「登場人物」といいます。登場人物の会話や行動に注意して読むと、その人物の考え方やせいにかく、気持ちなどを知ることができます。

また、問題をとくときには、登場人物どうしのかん係や場面の様子、中心となる出来事のないようにとそれに対する登場人物のたい度や気持ちのへんかななどにも注目しましょう。

【例題】

次の文章を読んで、あとの問いに答えよう。

たかしは、学校の「おべんとうの日」がきらいだ。たかしの学校では、水曜日は家でおべんとうを作って持ってくるのがきまりだ。でも、たかしがその日に持って行くのは、いつもコンビニで買ったおにぎりやパンだ。

たかしの家はお父さんもお母さんも仕事をしている。だから水曜日はお金をもらって、自分で食べたいものを買っている。「おべんとうの日」は、みんなかわい色のおべんとう箱を持ってくる。ふたを開けると、たまごやきや赤いウィンナーなどがぎっしり入っていて、まるで小さな花畑みたいだ。いそがしい両親には、とてもあんなおべんとうを作る時間などないだろう。それは、たかしにもわかって

いる。でも、手作りのおべんとうをうれしそうに食べる友だちの横でコンビニのサンドイッチを食べていても、なんだかおいしく感じないのだ。

(問) —線部「たかしがその日に持って行くのは、いつもコンビニで買ったおにぎりやパンだ」とありますが、これはなぜですか。あとのア～エの中からえらぼう。

- ア 「おべんとうの日」がきらいだから。
- イ コンビニのおにぎりやパンを食べるのがすきだから。
- ウ 両親は仕事がいそがしくおべんとうを作れないから。
- エ 手作りのおべんとうは食べたくないから。

【答え】 ウ

【かいせつ】

—線部の後の文に、その理由が書いてあります。「たかしの家はお父さんもお母さんも仕事をしている。だから水曜日はお金をもらって、自分で食べたいものを買っている。」とあるので、ウが答えになります。アは、本文に書かれています。イ・エは、本文に書かれていないので答えになりません。

## 【練習しよう】

次の文章を読んで、あとの問いに答えよう。

小さな花畑。たかしは友だちのおべんとうをはじめ見た時にそう思った。お母さんの手作りだというそれは、赤いウィンナーやたまごやきがぎっしりつまっていて、まるでそこだけ春が来たようだ。

たかしは自分の手元を見つめる。ボリウムがあつて気に入っている、近所きんじよのコンビニのやきそばパンだ。でも、あのおべんとうを見てしまったあとだと、なんだか昔話むかしに出てくるどろまんじゅうのように感じてしまって、たかしはとたんに食べる気がなくなってしまった。

(問) ー線部「小さな花畑」とは、何のことですか。あとのア～エの中からえらぼう。

- ア 春の花畑
- イ 赤いウィンナー
- ウ やきそばパン
- エ 友だちのおべんとう

エ 答え

次の文章を読んで、あとの問いに答えよう。

「かおり、にんじんも食べなさい。」

かおりは、にんじんがきらいだ。ママの言うこともわかるけど、できることなら食べずに済ませたい。

「かおり、にんじんも食べなさいや大きくなれないぞ。」

今日はパパまでママの味方をして、そんなことを言う。

今日の夕食はカレーライス。肉や野菜がごろごろ入った、ママのとくいりょうりだ。もちろん、にんじんも大きくなかたまりで入っている。にんじんをのこしてしまおうと、たいていは

「まったく、かおりはしょうがないわね。」

とあきらめてくれるママだけど、今日は食べきるまではゆるしてくれなさそうだ。

しかたなく、皿のはじによせていたにんじんを一切れスプーンにのせる。なるべく味を感じないですむように、まごごとくりと飲みこんだ。ママの顔をちらりと見ると、かおりがにんじんを食べたので、まんぞくそうにわらっている。パパの方をちらりと見て、かおりはみようなことに気がついた。パパがカレーを一口食べるたびに、口元をナプキンでふいている。そういえばパパは夕食にカレーが出るたびに、ナプキンで口をぬぐいながら食べる。いつもはそんなことしないのに、カレーのときだけ、まるで高級レストランに行ったときのように、何度もナプキンで口をぬぐうのだ。

「パパ、なんでカレーを食べるときだけ、そんなにきどっ

て食べているの。」

かおりが声をかけると、パパは明らかにぎくりとした。その様子を見たママの目じりがつり上がった。

パパはかんねんしたようにがっくりとかたを落とすと、ナプキンをしぶしぶ広げた。そこには、カレーライスに入っていた玉ねぎのかけらがおさまっている。パパは玉ねぎだけを口から出して、ナプキンの中にかくしていたのだ。ママはパパにむかってあきれたように、

「あなた、それじゃかおりのこと言えないじゃない。」

と言うと、ため息をついた。

「パパ、ずるいよ。」

かおりがふてくされると、パパはこまったようにわらって、二人にむかって手を合わせてきた。

「ばれちゃったか。ごめんね、かおり。」

そう言われると、かおりもママもなんだかおかしくなって、みんなでわらってしまった。

「今度は二人とも、ズルしないで食べなさいね。」

ママの言葉に、パパとかおりは首をすくめて、もう一度わらった。

(一) — ①線部「そんなこと」とありますが、これは何を指していますか。あてはまるものを、本文中から二十五字でぬき出そう。ただし、点や丸も一字とします。


(2) — ②線部「まるごとぐくりと飲みこんだ」とありますが、それはなぜですか。あとのア、エの中からえらぼう。

- ア もうおなががいっぱいで、食べられなかったから。
- イ ママの作るカレーはおいしくないから。
- ウ きらいなにんじんをむりして食べているから。
- エ にんじんが大きすぎて口に入らなかったから。

(3) — ③線部「パパは明らかにぎくりとした」とありますが、なぜですか。あとのア、エの中からえらぼう。

- ア 玉ねぎを食べていないことがばれたと思ったから。
- イ にんじんをナプキンにかくしていることがばれたから。
- ウ きどっていると思われるのがいやだったから。
- エ ママにおこられるのがこわかったから。

(4) — ④線部「ママの目じりがつりあがった」とありますが、このときのママの気持ち<sup>も</sup>を、あとのア、エの中からえらぼう。

- ア 悲<sup>かな</sup>しい
- イ うれしい
- ウ おどろいた
- エ おこった

(5) — ⑤線部「かおりがふてくされる」とありますが、このときのかおりの様子にあてはまるものを、あとのア、エの中からえらぼう。

- ア パパがにんじんを食べたように見せていたことにおこっている。
- イ パパが玉ねぎを食べたように見せていたことにおこっている。
- ウ パパがカレーを食べなかったので悲しく思っている。
- エ パパがきらいなにんじんを食べてくれたのでうれしく思っている。

次の文章を読んで、あとの問いに答えよう。

事けんは、学校の遠足に行くバスの中で起こった。トイレ休けいをすませたあと、人数がそろっているか、先生がたしかめたときのことだ。

①「一、二、三……三年二組は三十二人、全員そろったわね。」  
ぼくとリョウタは顔を見合わせた。前のせきにすわっていたカズミも、後ろにいるぼくたちをふりかえってささやく。

「……今日、三十一人しかないよね。」

そうなのだ。一人だけ、クラスメートの田中さんが、かぜをひいて休んでいる。今日は三十一人しかないはずなのだ。

②ぼくは先生におずおずと話しかけた。

「先生、今日は田中さんがお休みだから、全部で三十一人でしょう。」

先生は目を見はると、もう一度しんちように人数を数え始めた。

「三十、三十一、三十二……やっぱり三十二人いるわよ。」

ぼくたちはぎよっとして後ろをふりかえった。話を聞いていたクラスメートも、ぼくたちといっしょに人数を数え始める。三十、三十一……三十二人。先生がまちがえているわけではない。でも、みんないつも見かける顔だ。知らない顔はない。

④ざわざわとさわぐみんなを落ち着かせたのは、先生の声だった。

「きつと、田中さんも遠足に来ているのよ。」

先生はそう言ってわらう。

そういえば、遠足を一番楽しみにしていたのも、田中さ

んだった。だから、きのうおみまいに行ったときも、明日までにはかぜをなおして遠足に行くと言いはっていたのだ。たしかに先生の言うとおり、三十一人が三十二人にふえただけだ。ふしぎではあるけれど、こわいとかそういう感じはしない。けっきょく、何度数えても三十二人のまま、ふしぎな遠足はぶじに終わった。

三日後、ぼくとリョウタはもう一度、田中さんの家におみまいに行った。田中さんのかぜはすっかりよくなっていった。遠足に行けなくてごめんだったね、と声をかけると、田中さんはわらった。

「それでもないよ。みんなといっしょに遠足に行くゆめを見たんだ。すごいリアルで、なんだか本当のこのようだったよ。」

ぼくとリョウタは、遠足のできごとを思い出して、顔を見合わせた。そうしてにっこりとわらうと、同時に田中さんにむかって声をかけた。

⑤「あのね、遠足に行った日に——。」

(一) —①線部「ぼくとリョウタは顔を見合わせた」とありますが、なぜですか。あてはまるものを、あとのア～エの中からえらぼう。

ア 先生が数えた人数が、一人足りなかったから。

イ 先生が数えた人数が、一人多かったから。

ウ 先生が田中さんをバスの外においてきてしまったから。

エ 先生が、田中さんがいないのに気づかなかったから。

(2) — ②線部「ぼくは先生におずおずと話しかけた」とありますが、このときの「ぼく」の様子ようすにあてはまるものを、あとのア～エの中からえらぼう。

ア 先生に話しかけるのをいやがっている様子。

イ 先生にまちがっていることを、えんりよがちに言う様子。

ウ 先生に声をかけるのをはずかしがっている様子。

エ 先生にまちがっていることを、大声で言う様子。

(3) — ③線部「もう一度しんちょうに人数を数え始めた」とありますが、このときの先生の様子にあてはまるものを、あとのア～エの中からえらぼう。

ア あまりたしかめずに人数を数える様子。

イ わざと人数をとばして数えている様子。

ウ よくたしかめて数えている様子。

エ 人数をふやして数えている様子。

(4) — ④線部「ざわざわとさわぐみんな」とありますが、このときの「みんな」の気持ちもにあてはまるものを、あとのア～エの中からえらぼう。

ア うれしい      イ 悲かなしい

ウ おこった      エ ふあん

(5) — ⑤線部「あのね、遠足に行った日に——」とありますが、二人はこの後、何を言おうとしたのでしょうか。次の文にあてまる言葉を、本文中からぬき出して書こう。

何度数えても、クラスの人数が	人ではなく、	先生が、「きつと
	人になるので、	
		も

遠足に来ている」と言ったこと



次の文章を読んで、あとの問いに答えよう。

「かおり、にんじんも食べなさい。」

かおりはにんじんがきらいだ。ママの言うこともわかるけど、できることなら食べずに済ませたい。

「かおり、にんじんも食べなさいや大きくなれないぞ。」

今日はパパまでママの味方をして、そんなことを言う。今日の夕食はカレーライス。肉や野菜がごろごろ入った、ママのとくいりょうりだ。もちろん、にんじんも大きなかたまりで入っている。にんじんをのこしてしまおうと、たい

「まったく、かおりはしょうがないわね。」

とあきらめてくれるママだけど、今日は食べきるまではゆるしてくれなさそうだ。

しかたなく、皿のはじによせていたにんじんを一切れスプーンにのせる。なるべく味を感じないですむように、ま

るごとごとくりと飲みこんだ。ママの顔をちらりと見ると、かおりがにんじんを食べたので、まんぞくそうにわらっている。パパの方をちらりと見て、かおりはみようなことに気がついた。パパがカレーを一口食べるたびに、口元をナプキンでふいている。そういえばパパは夕食にカレーが出るたびに、ナプキンで口をぬぐいながら食べる。いつもはそんなことしないのに、カレーのときだけ、まるで高級レストランに行ったときのように、何度もナプキンで口をぬぐうのだ。

「パパ、なんでカレーを食べるときだけ、そんなにきどっ

て食べているの。」

かおりが声をかけると、パパは明らかにぎくりとした。その様子を見たママの目じりがつり上がった。

④ パパはかんねんしたようにがっくりとかたを落とすと、ナプキンをしびしび広げた。そこには、カレーライスに入っていた玉ねぎのかけらがおさまっている。パパは玉ねぎだけを口から出して、ナプキンの中にかくしていたのだ。ママはパパにむかってあきれたように、

「あなた、それじゃかおりのこと言えないじゃない。」

と言うと、ため息をついた。

「パパ、ずるいよ。」

⑤ とかおりがふてくされると、パパはこまったようにわらって、二人にむかって手を合わせてきた。

「ばれちゃったか。ごめんね、かおり。」

そう言われると、かおりもママもなんだかおかしくなって、みんなであわってしまった。

「今度は二人とも、ズルしないで食べなさいね。」

ママの言葉に、パパとかおりは首をすくめて、もう一度わらった。

(一) — ①線部「皿のはじによせていた」とありますが、なぜそうなっていたのですか。あとのア～エの中からえらぼう。





次の文章を読んで、あとの問いに答えよう。

事けんは、学校の遠足に行くバスの中で起こった。トイレ休けいをすませたあと、人数がそろっているか、先生がたしかめたときのことだ。

「一、二、三……三年二組は三十二人、全員そろったわね。」  
 ぼくとユウタは顔を見合わせた。前のせきにすわっていたユカも、後ろにいるぼくたちをふりかえってささやく。

「……今日、三十一人しかないよね。」

そうなのだ。一人だけ、クラスメートの山田が、かぜをひいて休んでいる。今日は三十一人しかないはずなのだ。ぼくは先生におずおずと話しかけた。

「先生、今日は山田さんがお休みだから、全部で三十一人でしょう。」

② 先生は目をみはると、もう一度しんちょうに人数を数え始めた。

「三十、三十一、三十二……やっぱり三十二人いるわよ。」

ぼくたちはぎょっとして後ろをふりかえった。別のクラスの子がまぎれこんでいるのではないか。話を聞いていたクラスメートも、ぼくたちといっしょに人数を数え始める。三十、三十一……三十二人。先生がまちがえているわけではない。でも、みんないつも見かける顔だ。知らない顔はない。ざわざわとさわぐみんなを落ち着かせたのは、先生の声だった。

「きつと、山田さんも遠足に来ていのよ。」  
 先生はそう言ってわらう。

そういえば、遠足を一番楽しみにしていたのも、山田だった。だから、きのうおみまいに行ったときも、明日までにはかぜをなおすと言いはっていたのだ。たしかに先生の言うとおり、三十一人が三十二人にふえただけだ。ふしぎではあるけれど、こわいとかそういう感じはしない。けっきょく、何度数えても三十二人のまま、ふしぎな遠足はぶじに終わった。

三日後、ぼくとユウタはもう一度、山田の家におみまいに行った。山田のかぜはすっかりよくなっていた。遠足に行けなくてざんねんだったね、と声をかけると、山田はわらった。

「そうでもないよ。みんなといっしょに遠足に行くゆめを見たんだ。すごいリアルで、なんだか本当のこのようだったよ。」

ぼくとユウタは、遠足のできごとを思い出して、顔を見合わせた。そうしてにっこりとわらうと、同時に山田にむかって声をかけた。

「あのね、遠足に行った日に——。」

(一) — ①線部「今日、三十一人しかないよね」とありますが、それはなぜですか。あてはまるものを、あとのア～エの中からえらぼう。

ア クラスはもともと三十一人しかないから。

イ 休けいしたときに山田をおいてきてしまったから。

ウ 山田がかぜをひいて遠足に来ていないから。



エ 遠足に来ていない人が二人いるから。

(2) — ②線部「先生は目をみはる」とありますが、このときの先生の気持ちにあてはまるものを、あとのア〜エの中からえらぼう。

- ア おどろいた      イ 悲かなしい
- ウ うれしい      エ おこった

(3) — ③線部「ぎよつとして」とありますが、このときの「ぼくたち」のようす様子にあてはまるものを、あとのア〜エの中からえらぼう。

- ア 山田が来ていることを知らなくておどろいている様子。
- イ だれか知らない子がバスにいないのではないかとふあんな様子。
- ウ バスに乗る人数がふえて、楽しくなってきた様子。
- エ だれも休んでいないのでうれしくなっている様子。

(4) — ④線部「明日までにはかぜをなおすと言いはつていた」とありますが、このときの山田の様子にあてはまるものを、あとのア〜エの中からえらぼう。

- ア 自分だけが遠足に行けないことに悲しんでいる様子。
- イ 明日までに学校に行こうとしている様子。
- ウ みんなが遠足に行くことにおこっている様子。
- エ なんとか遠足に行こうとがんばっている様子。

(5) — ⑤線部「遠足のできごと」とありますが、これはどんなことですか。あてはまるものを、あとのア〜エの中からえらぼう。

- ア 先生がクラスの人数を数えまちがえたこと。
- イ みんなで大きなバスに乗ったこと。
- ウ 何度数えても人数が三十二人にふえていたこと。
- エ 何度数えても人数が三十一人にふえていたこと。



次の文章を読んで、あとの問いに答えよう。

「親せきの家に行かなくちゃいけないの。この子を一週間よろしくおねがいしますね。」

そう言っただけのおばさんが持ってきたのは、一匹の子ザルが入ったかごだった。犬やネコを飼っている人はめずらしくもないけれど、サルなんてはじめてだ。ゆかりは、げんかん先でお母さんとおばさんが話す様子を、かけからこっそりうかがった。

サルは長い手足としっぽをもっていて、いかにもすばしっこそうだ。目がくるくるとして、まるでぬいぐるみのようだ。ところがサルは、ゆかりと目が合うなり、「ギィッ」と鳴いて、歯をむきだした。歯は小さいけれどとがっていて、かまれたらとてもいたそうだった。ゆかりは思わず後ずさってしまった。そんな様子にも気がつかず、お母さんは

「ゆかりもかわいがってあげてね。」  
なんて言う。あんなこわい顔を見てかわいがれるわけがないのに。

お昼の時間になると、ゆかりがサルにえさを持っていくことになった。でも、あいかわらずサルは、ゆかりを見ると歯を見せておどすので、ゆかりはびくびくしてしまふ。急いでえさをあげてしまおうと、かごの中に手をつこんだときだ。サルはガリッとゆかりの手をひっかいた。

「いたい。こんなサルなんて、もう知らない。」  
ゆかりはかごのふたをいきおいよくしめて、いちもくさんにお母さんのところへかけよった。

「お母さん。もうあんなサルのめんどうなんか見たくないよ。」

なきながらそう言うと、お母さんはちよつとこまったようにわらって、ゆかりに問いかけた。

「ゆかりは、サルがこわかったの。」

ゆかりがうなずくと、お母さんは、

「きつと、サルもゆかりのことをこわがっているのよ。もう一度、サルのところに行ってみてごらん。」

とゆかりにやさしく言った。

⑤にげだしたいのをこらえてゆかりがもう一度かごに近づくと、サルはかごの中のすみの方で小さくなっていった。おばさんが近くにいたときは、あちこちをとびはねていたのに、今はまるで元気がない。ゆかりと同じように、きつとサルもきんちようして、こわがっていたんだ。そう思って今度はこわがらせないように、ゆつくりかごにえさを入れた。サルはしばらくゆかりを見てから、えさを食べ始めた。食べ終わると安心したのか、今度はじゃれるように、ゆかりのかたにとびうつった。

(一) — ①線部「一匹の子ザル」とありますが、このサルをべつものにとたとえた言葉を、本文中から五字でぬき出して答えよう。




(2) — ②線部「ゆかりは思わず後ずさってしまった」とありますが、それはなぜですか。あとのア～エの中からえらぼう。

- ア おばさんがきらいだったから。
- イ お母さんがこわかったから。
- ウ サルの歯がこわかったから。
- エ サルの目がこわかったから。

(3) — ③線部「かごの中に手をつっこんだ」とありますが、それはなぜですか。あとのア～エの中からえらぼう。

- ア 早くえさをあげてしまったから。
- イ サルにえさをあげたくなかったから。
- ウ サルがかごのおくにいたから。
- エ サルがゆかりをひっかいたから。

(4) — ④線部「かごのふたをいきおいよくしめて」とありますが、このときのゆかりの気持ちを、あとのア～エの中からえらぼう。

- ア うれしい
- イ おこった
- ウ さびしい
- エ 楽しい

(5) — ⑤線部「にげだしたい」とありますが、それはなぜですか。あとのア～エの中からえらぼう。

- ア サルのことがまだこわかったから。
- イ サルがかわいと思ったから。
- ウ お母さんのことがこわかったから。
- エ サルに元気がなかったから。



次の文章を読んで、あとの問いに答えよう。

「親せきの家に行かなくちゃいけないの。この子を一週間よろしくおねがいしますね。」

そう言っ①てとなりのおばさんが持②ってきたのは、一ぴきの子ザルが入ったかごだった。犬やネコをかつている人はめずらしくもないけれど、サルなんてはじめてだ。ゆかりは、げんかん先でお母さんとおばさんが話す様子を、か③げからこっそりうかがった。

サルは長い手足としっぽをもっていて、いかにもすばしっこそうだ。目がくるくるとして、まるでぬいぐるみのようだ。ところがサルは、ゆかりと目が合うなり、「ギィッ」と鳴いて、歯をむきだした。歯は小さいけれどとがっていて、かまれたらとてもいたそうだ。ゆかりは思わず後ずさってしまった。そんな様子にも気がつかず、お母さんは

「ゆかりもかわいがってあげてね。」  
なんて言う。あんなこわい顔を見てかわいがれるわけがないのに。

お昼の時間になると、ゆかりがサルにえさを持っていくことになった。でも、あいかわらずサルは、ゆかりを見ると歯を見せておどすので、ゆかりはびくびくしてしまふ。急いでえさをあげてしまおうと、かごの中に手をつっこんだときだ。サルはガリッとゆかりの手をひっかいた。

「いたい。こんなサルなんて、もう知らない。」  
ゆかりはかごのふたをいきおいよくしめて、い④ちもくさんにお母さんのところにかけてやった。

「お母さん。もうあんなサルのめんどうなんか見たくないよ。」

なきながらそう言くと、お母さんはちよつとこまったようにわらって、ゆかりに問いかけた。

「ゆかりは、サルがこわかったの。」

ゆかりがうなずくと、お母さんは、

「きつと、サルもゆかりのことをこわがっているのよ。もう一度、サルのところに行ってみてごらん。」

とゆかりにやさしく言った。にげだしたいのをこらえてゆかりがもう一度かごに近よると、サルはかごの中のすみの方で小さくなっていた。おばさんが近くにいたときは、あちこちをとびはねていたのに、今はまるで元気がない。そのすがたはどこかさびしそうだ。きつとサルもはじめての場所できんちようして、こわがっていたんだ。そう思って今度はこわがらせないように、ゆっくりかごにえさを入れた。サルはしばらくゆかりを見てから、えさを食べ始めた。食べ終わると安心したのか、今度はじゃれるように、ゆかりのかたにとびうつった。

(一) — ①線部「となりのおばさんが持ってきたのは、一ぴきの子ザルが入ったかごだった」とありますが、なぜおばさんは子ザルを持ってきたのですか。あてはまるものを、あとのア～エの中からえらぼう。



ア ゆかりへのたん生日プレゼントにするため。  
 イ お母さんへのプレゼントにするため。  
 ウ 親せきの人へのプレゼントにするため。  
 エ 親せきのところに行く間あずかってもらうため。

(2) —②線部「かげからこっそりうかがった」とありますが、このときのゆかりの様子にあてはまるものを、あとのア〜エの中からえらぼう。

ア 子ザルがめずらしくて、きょうみぶかげに見る様子。  
 イ 子ザルがかわいくて、すぐにでもかけよりたい様子。  
 ウ 子ザルがきらいで、びくびくしながら見る様子。  
 エ おばさんが苦手で、あまり話しかけたくない様子。

(3) —③線部「あんなこわい顔」とは、だれの顔ですか。あとのア〜エの中からえらぼう。

ア となりのおばさんの顔    イ 子ザルの顔  
 ウ お母さんの顔    エ ゆかりの顔

(4) —④線部「いちもくさんにお母さんのところにかけてよった」とありますが、このときのゆかりの気持ちにあてはまるものを、あとのア〜エの中からえらぼう。

ア サルに、すぐにでもえさをあげたくて急いでいる。  
 イ もうサルのめんどうを見たくないとおこっている。  
 ウ サルがえさを食べたのでうれしくなっている。  
 エ お母さんのことがすきで楽しくなっている。

(5) —⑤線部「サルはかごの中のすみの方で小さくなっていった」とありますが、このときのサルの気持ちにあてはまるものを、あとのア〜エからえらぼう。

ア おばさんとはなれて楽しくなっている。  
 イ おばさんとはなれてうれしくなっている。  
 ウ おばさんとはなれてさびしくなっている。  
 エ ゆかりがすきでうれしくなっている。